

# 9年目の「島スクエア」の方針と活動報告

岡野内 悟\*1

## Policy and Activity Report of the Ninth Year of “Shima-square”

Satoru OKANOUCHI

### Abstract

Shima-square is an activity that aims to regional activation by entrepreneurship education. This paper shows the policies and reports of this activity which has been continuing nine years. The activity of Shima-square is to implement the course, to cultivate the next generation, to support the graduates and community activities. The activity of Shima-square is not intended to carry out the measures to the local creation directly. However, we think to lead to resolve regional issues by providing a place to gather people with a thought to the region and practice.

**Key words:** shima-square, regional revitalization, next generation, entrepreneurship

### 1. はじめに

「島スクエア」は、平成20年度の文部科学省科学技術振興調整費事業、地域再生人材創出拠点の形成「山海空コラボレーションみかん島再生クルー」と題して採択されたプロジェクトの愛称で、起業家を養成することで地域再生につなげる取り組みとしてスタートし、状況に応じて形を変えながら今日に至っている<sup>1)6)</sup>。少子高齢化が進み人口減少が止まらない地域にとって地域再生は最重要課題の一つであり、島スクエアは地域人材の養成という形で、地域課題に地道に取り組んできた試みの一つと捉えることができる。

本論文は平成28年度で島スクエア事業も9年目を迎え、その方針と活動内容について紹介し、今後の展望について述べる。

### 2. 島スクエアの方針

平成28年度の島スクエアの現在の方針も、補助金が終了した後の継続に向けた平成24年度「6年目の島スクエアの方針」(文献[6])を踏襲している。すなわち、島スクエアを「起業や新たな事業展開を目指す意欲的な人が集まり、それぞれの得意とする能力を生かして結びつき、地域再生へつなげようとする

取り組み」と捉え、講座の実施、次世代の育成、地域活動や修了生のサポートの3つの活動を行うことである。島スクエアの実施体制を図1に示す。

島スクエアの活動は、本校の島スクエア起業教育研究センターと平成25年に島スクエア修了生を中心に修了生や地域活動を支援するために立ち上げたNPO法人島スクエアプラスが中心になって行っている。活動予算は、本校と周防大島町をはじめとする柳井広域自治体からの補助金で賄われている。

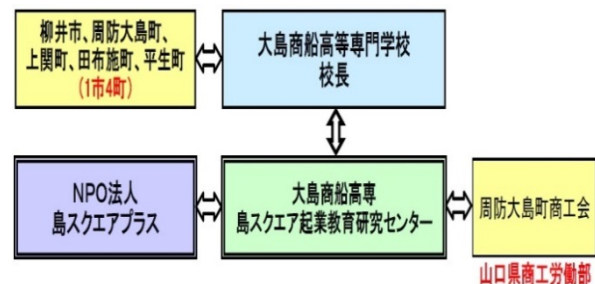


図1 実施体制

### 3. 活動内容

平成27年度の活動日程を表1に示す。活動は年間をとおして行われ、各種講座、奇数月の第2日曜の

\*1 電子機械工学科

表1 平成27年度「島スクエア」の日程

日程	講座・運営	修了生支援
4月		
4月9日(木)	島スクエア運営会議	
4月23日(木)	島スクエア運営会議	
4月26日(日)		安下庄海の市
5月		
5月7日(木)	島スクエア運営会議	
5月10日(日)		ふれあい市場
5月21日(木)	島スクエア運営会議	
5月23日(土)	1受講説明会14:00	
5月24日(日)		安下庄海の市
5月28日(木)	2受講説明会19:00	
6月		
6月11日(木)	島スクエア運営会議	
6月13日(土)	1基礎09:30-16:30	
6月14日(日)		島スクエアプラス総会
6月21日(日)	「業務用食材流通の現状」	
6月25日(木)	島スクエア運営会議	
6月27日(土)	2基礎09:30-16:30	
6月28日(日)		安下庄海の市
7月		
7月3日(金)	商品開発19:00	
7月5日(日)	特.発酵食品13:30	
7月9日(木)	島スクエア運営会議	
7月10日(金)	商品開発19:00	
7月12日(日)		ふれあい市場
7月23日(木)	島スクエア運営会議	
7月25日(土)	商品開発13:00	
7月26日(日)		安下庄海の市
7月29日(水)	「食の安心・安全 お届け講座」	
8月		
8月2日(日)	1会計セミ13:00	
8月6日(木)	島スクエア運営会議	
8月8日(土)	商品開発13:00	
8月9日(日)	2会計セミ13:00	
8月18日(火)	1次世代	
8月20日(木)	2次世代	
8月23日(日)	「インターンシップ」次世代	
8月27日(木)	親子発明工作教室	
8月27日(木)	発表_次世代	
8月30日(日)	島スクエア運営会議 1税務セミ13:00	安下庄海の市
9月		
9月2日(水)	1Web基礎19:00	
9月5日(土)	商品開発(発表)13:00	
9月6日(日)	2税務セミ13:00	
9月9日(水)	2Web基礎19:00	
9月10日(木)	島スクエア運営会議	
9月13日(日)	「インターンシップ」個別指導	ふれあい市場
9月16日(水)	3Web基礎19:00	
9月24日(木)	島スクエア運営会議	
9月25日(金)		島スクエアプラス 「喫茶廊」
9月27日(日)		安下庄海の市
9月30日(水)	4Web基礎19:00	

「ふれあい市場」、「安下庄海の市」などの支援、年度末の報告会「島スクエアフォーラム」である。運営会議は周防大島町、商工会、島スクエアプラスからの委員を交えて、実施状況の報告や今後の活動についての打ち合わせ、意見交換を定期的に行っている。また、島スクエアの広報も兼ねて、活動の案内や報告を島スクエアホームページに掲載している<sup>7)</sup>。なお、ふれあい市場の運営など活動の一部を島スクエアプラスに業務委託し、協働して運営している。

### 3. 1 講座の実施

平成27年度に実施した一般向けの講座と受講人数を表2に示す。

実施する講座は、「起業や新たな事業展開に役立つもの」という広い観点で捉え、予算や担当者を考慮

表2 平成27年度の講座と受講人数

時期	講座名	回数(回)	時間数(時間)	受講人数(1回以上出席/人)	修了数(人)80%以上出席/発表
6月	基礎集中講座(前期開講)	2	12	10	10
8月	会計セミナー	2	8	10	7
8月末	税務セミナー	2	8	9	7
12月	基礎集中講座(後期開講)	2	12	3	2
6月から9月	商品開発講座	6	21	7	6
7月から9月	商品を仕上げよう	3	12	16	13
9月から10月	Web基礎講座	6	12	2	2
10月から12月	起業に役立つデジカメ講座	6	12	13	7
7月5日	発酵食品をつくろう	1	4	21	-
6月21日	業務用食材流通の講座	1	2	12	-
7月29日	食の安心・安全お届け講座	1	2	10	-
10月9日	バーコードの仕組みとPOSってなんだろう	1	2	4	-
H28年1月17日	ものづくり技術紹介	1	3	13	-
	合計	34		130	54

して、5月からの受講生募集に間に合うように決める。講座内容は、次の3つに分類できる。

- ・ 起業、経営に役立つもの
- ・ 商品開発やサービスに役立つもの
- ・ 販売促進や情報発信に役立つもの

起業や経営は商工会、ものづくり技術やWeb情報関連、海洋に関する技術は本校、起業相談や販売・流通、発酵食品などは島スクエアプラスという形で経験豊かな人材を有しており、予算に合わせて日程調整して講座を計画する。図2は発酵食品講座の様子である。講座の実施場所は、主に島スクエア起業教育研究センター2階の講義室を利用している。

一方、島スクエア講座の年間の実施日数と受講人数を図3に示す。国からの補助金で実施した平成20年度から24年度までは、講座数を徐々に増やし、講座日数が年間80日、受講生も50名近くになった。特に平成24年度は、島スクエアが終了するという駆け込みで受講生が大幅に増えた。自治体からの補助金による継続後は予算の大幅減に関わらず、年間30日の講座と30名程度の受講生を維持している。



図2 発酵食品の講座

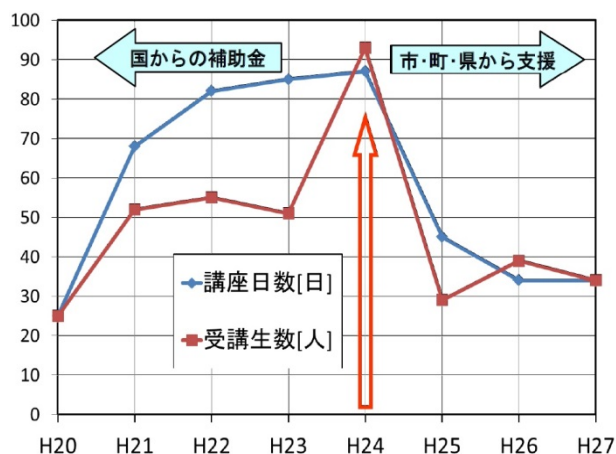


図3 島スクエア講座の実施日数と受講人数

島スクエアを実施した当初は、“地域的に受講生を毎年確保するのが難しいのではないか”という意見もささやかれていた。しかしながら、講座内容も年により変わることや、以前は中断して何回か受講できなかった部分を勉強し直す方もおり、修了生の再受講も増えている。結果として、長期的な人材養成の場となりつつある。なお、これまで島スクエアの講座は、自治体から補助金を頂いて運営していること、受講生がわざわざ貴重な時間を使って講座に来られることに配慮し、無料で行っている。

### 3. 2 次世代の育成

少子化の進む地域にとって、教育の質の確保や「考える力」、「創造する力」を身に付けさせることは重要なことである。平成27年度に実施した次世代育成講座と受講人数を表3に示す。次世代集中講座は夏休み特別セミナーと題して本校近隣の高校と本校学生に案内する起業家養成の基礎講座である。高校の夏休みは7月と8月、本校の夏休みはお盆明けの8月と9月であるため、学生が参加しやすい日程の調整が課題となっている。

また、親子発明工作教室は保護者と小学生が、2時間程度で工作する講座で、近隣の小学校へご案内している。これまで申し込みが多く、受け入れ人数を増やすため午前と午後の2回に分けて行っているが、さらに受け入れの人数を増やすことを検討している。図4は、親子発明工作教室の様子である。

また、ふれあい市場も次世代育成の場となりつつある。近隣の小中学校からボランティアの生徒がグループとして来られ、地域との交流や実習体験の場となりつつある。図5は、ふれあい市場当日の準備前のボランティアの生徒さんへの全体説明の様子である。

さらに、ふれあい市場には本校からロボットコーナーも設けられ、レゴブロックで組み立てたロボットを対戦させる「レゴバトル」が小学校低学年も楽しめる教育の場となっている。図6は「レゴバトル」の様子である。毎回楽しみにしている子も何人かいて、ボランティアの小中学生も合間に楽しんでいる。

表3 平成27年度の次世代育成講座と受講人数

時期	講座名	回数(回)	全時間数(時間)	受講人数(1回以上出席(人))	修了数(人) (80%以上出席/卒業)
8月	次世代集中講座	5	23	9	8
8月27日	親子発明工作教室	1	2	34	午前と午後分けて実施
10月31日	商船祭(ロボットであそぼう)	1	5	数百人	商船祭で実施



図4 親子発明工作教室



図5 ふれあい市場でのガイダンス



図6 ふれあい市場での「レゴバトル」

### 3. 3 地域活動や修了生のサポート

地域活動や修了生のサポートは、NPO 法人島スクエアプラスと一緒にしている。主な活動内容は次のとおりである。

- ・島スクエア起業教育研究センターでは、決められた曜日に相談員を置き、修了生や地域の方の相談に応じている。
- ・島スクエアフォーラムを行い、活動の報告会と地域を考える方の交流の場となっている。
- ・起業に役立つ情報など「島スクエア」ニュースレターとして電子メールでの配信を行っている。
- ・「島スクエアプラス」主催の講座やワークショップを行っている。
- ・「ふれあい市場」（奇数月第2日曜）、11月には「大島夢さくひろば祭り」を行っている。
- ・「安下庄海の市」、「ふれあいどころ437」への修了生出店などのお手伝いをしている。
- ・「小規模菜園農産物」流通のしくみづくりを行っている。
- ・柳井白壁通り「かみゆい処」の利用に向けての取り組みを行っている。

これらの活動は、修了生や島スクエアプラス、地域の方々のボランティアに支えられている。この、3月に実施した島スクエアフォーラムでは、島スクエア修了生など地域で活躍する起業家による会場一体型のパネルディスカッションが行われた。

### 4. 島スクエアの展望

現在、全国で地域創生への取り組みは始まり、各地で様々な活動を耳にするようになった。地域資源を生かして商品開発を行って六次産業化を目指したり、体験型観光や外国人向けの観光に力を入れたり、インターネットを活用した情報発信やネット販売、ブランド戦略で海外展開を図ったり、様々な事例がテレビや新聞で報道されるようになってきている。一方、「限界集落」、「消滅都市」という言葉もささやかれるように、社会生活を維持することさえ難しくなり始めている地域もある。島スクエアの活動は、直接的に地域創生への対策を行うものではない。しかしながら、地域への思いを持っておられる方が集まる場を設け、それぞれを生かしていくことで、間接的に地域問題解決につながることを期待している。また、未熟な点も多いが、島スクエアの活動をとおして、山口県東部地域で子供からお年寄りまで世代を超えた地域教育の場を提供するスタートに立っていると考えている。

一方、島スクエア活動は、意欲的な方々のボラン

ティア的な働きで維持されている部分が多い。そのため、予算内でどの程度のことができるか、配慮しながら運営している。

また、島スクエアの関係者も定年退職世代は年々年を取り、子育て世代は生活面を大切にすることが必要がある。そのため、島スクエアの運営も年々難しくなる面はある。しかしながら、次世代の成長を期待しながら、島スクエアが地域で必要とされる限り、活動を続けて行ければ良いと考えている。

### 5. おわりに

山口県内11校の大学・高専では、山口大学が中心となり“地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）”「やまぐち未来創生人材育成・定着促進プログラム」が採択され山口フロンティアリーダー（YFL）の育成が始まっている。島スクエアの活動は、学生が地域活動に目を向ける良い機会になっている。本校からも、地域で活躍できる人材が育つことを願っている。

### 謝辞

島スクエアの活動は地域の人を大切にしている意欲的な方々に支えられている。皆様に敬意を表するとともに、心より感謝致します。また、本活動は周防大島町、柳井市、田布施町、平生町、上関町、周防大島町商工会を通じて山口県商工労働部のご支援、ご協力を得て実施しています。記して感謝の意を表します。

### 参考文献

- 1)大島商船高等専門学校：山海空コラボレーションみかん島再生クルー2008～2009年報,(2010)
- 2)大島商船高等専門学校：山海空コラボレーションみかん島再生クルー2010年報,(2011)
- 3)大島商船高等専門学校：山海空コラボレーションみかん島再生クルー2011年報,(2012)
- 4)大島商船高等専門学校：山海空コラボレーションみかん島再生クルー2012年報,(2013)
- 5)岡野内：商品開発起業コース最終年の方針と島スクエア起業教育研究センターの設立、大島商船高等専門学校紀要第45号、pp.1-4,(2012)
- 6)岡野内、岡宅：6年目の「島スクエア」の方針と活動報告、大島商船高等専門学校紀要第47号、pp.51-54,(2014)
- 7)大島商船高専「島スクエア」トップページ：  
<http://www.oshima-k.ac.jp/shima-sq/>